

事業報告概要書							様式1ー①		
1 基本情報									
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要						
狭山丘陵グループ			(指定管理者名) 狭山丘陵パートナーズ						
指定期間			(団体の概要) 西武造園株式会社、NPO法人 NPO birth、一般社団法人 防災教育普及協会、ミズノスポーツサービス株式会社						
R5.4.1 ～ R 10.3.31 (5年間)									
2 施設名			3 収支(単位:千円)						
狭山公園 狭山・境緑道 八国山緑地 東大和公園 野山北・六道山公園 中藤公園					令和6年度	令和5年度	令和4年度	公園別支出額(税込)	
			項目		金額	金額	金額		
			収入 計		866,902	637,372	624,268	狭山公園 501,481	
			指定管理料		866,902	637,372	624,268	狭山・境緑道 132,998	
			内 利用料金					八国山緑地 6,240	
			誤 その他収入					東大和公園 2,982	
			支出 計		856,760	637,372	624,268	野山北・六道山公園 209,209	
収支差		10,142	0	0	中藤公園 3,850				
4 管理運営の概要									
狭山丘陵パートナーズでは、これまで里山の持つポテンシャルを引き出しながら、現代社会が抱える様々な課題を解決していく「サステナブルチャレンジ」を進め狭山丘陵の広域的な連携推進や、都民協働による里山風景の保全などの成果をあげてきた。今期は持続可能な社会に貢献する公園づくりに向けた具体的な行動、成果を求める「サステナブルアクション」を、産官学民の協働でさらに進め、東京の宝物である狭山丘陵から「SATOYAMA」を国内外に広く発信し、「未来の東京」の実現、「世界から選ばれる都市」づくりに貢献していく。第4期2年目である令和6年度は、具体的な成果を出すためのアクションを数多く実践した。各公園での特色やポテンシャルを発揮するために取り組んだ。									
5 管理状況									
①維持管理									
【1.適切な維持管理を行うための取り組み】 スタッフによる日常巡回、専門家による定期施設点検、樹木一斉点検、ナラ枯れの確認を全公園で実施。パークモニタリングアプリを活用し不具合や危険箇所の早期発見に努め、安全性の確保を行うと共に、計画的な補修・修繕・改修で、予防保全を進めた。 【2.事故、自然災害及び感染症などの社会課題への対策・対処するための取組】 本部と管理所スタッフで園内パトロールを行うパークスキャンや本部による安全パトロール等を活用し安全の確保、品質向上に努めた。また、防災訓練や学習会、初期消火訓練、安全管理講習などを通じて災害時等の対策を進めた。事故発生時は迅速な事後対応に努め、影響を最小限に留めた。 【3.施設補修、施設改良に関する要望への取組】 様々な形で利用者の意見を収集し、詳細な内容を聞いた上で迅速に現地を確認し対応内容や時期などを明確にして、施設補修を進めた。 【4.丘陵地特性を踏まえた植生管理】 公園ボランティアや地域団体と連携して里山保全の活動を実施した。各部署が連携して調査や保全の計画をたて作業を実施し、ヤナギスプラなど貴重な植物の復活や再生、里山に生息する生きものの保全につなげた。また取組みを掲示やホームページ、ニュースレターでの発信、現地ガイドで普及啓発を実施した。 【5.公園が持つ緑の特性を一層引き出すための新たな維持管理の考え方】 本部のスタッフと公園スタッフでランドスケープチェックを行い、新たな見どころづくりを進めた。また、公園ボランティア、地域の団体、学校等と連携し外来種駆除や里山保全の活動を協働で進め、環境教育にもつなげた。									
②利用者への対応									
【1.質の高いサービスを提供するための取組】 里山を楽しむ自然体験プログラムを実施し、Instagram等のSNSを活用して各公園の魅力発信を進めた。 【2.利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法】 日々の意見情報をパークモニタリングアプリを活用してデータベース化、業務日誌・月報などへ反映。意見情報管理のDXを進めた。また意見情報の対応状況については、対応漏れの無いよう、次月、四半期ごとに再確認し、確実に対応した。 【3.都民協働や地域コミュニティとの連携による公園の魅力や地域の価値の向上につながる取組】 コーディネーターがボランティア活動を本格的に再開。狭山公園では、様々な団体・企業とのパートナーシップにより新たな公園活用を進めた。野山北・六道山公園では、本格再開した活動が活発化。収穫祭が4年ぶりに実施となり、食品衛生等課題を共有して意見交換、対策を講じ盛況に終わった。新たな活動拠点が完成し、これからの宮野入谷戸への意見交換を実施した。 【4.公園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案】 6市町と連携し観光振興となるフォトロゲイニング、里山環境を活かした映画会の実施、狭山丘陵の自然環境保全の取組と公園の魅力をPRするサマヒルズデイの開催など公園の魅力を伝える事業を進めた。 【5.東京2020 大会レガシーを継承する取組】 スポーツコーディネーターを配置し、各公園でのスポーツ教室を通じてスポーツに親しむ機会、健康づくりにつなげた。また、ユニバーサルデザインの研修を通じ、掲示物やチラシ、サイン等の改善を図り様々な方が公園、管理所に來所した際への多言語翻訳アプリをいれたタブレット等を配置するなど準備を整えた									
6 利用者アンケート結果									
実施方法：回収、対面、WEB									
施設名	回答数	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応			
狭山公園	118	4.7	4.6	4.5	4.6	4.8			
狭山・境緑道	109	4.4	4.3	4.3	4.4	4.5			
八国山緑地	139	4.3	4.2	4.2	4.3	4.4			
東大和公園	74	4.3	4.0	4.1	4.1	4.4			
野山北・六道山公園	151	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6			
中藤公園	23	4.0	4.2	3.7	4.0	4.7			
グループ平均	102.3	4.4	4.3	4.2	4.3	4.6			
7 利用者数の状況(単位:人)									
施設名	当該年度	分析							
狭山公園	585,512	イベント時晴天に恵まれた、春秋の行楽期はにぎわった。							
狭山・境緑道	1,169,248	猛暑等による天候不順により昨年比減となったと推測される。							
八国山緑地	182,602	ツリーイング、走り方教室などイベントはにぎわった。利用者減にはナラ枯れ園路封鎖の影響。							
東大和公園	42,745	昨年比と変わらない入園者数となった。							
野山北・六道山公園	184,634	里山民家を中心にボランティア活動も通常に戻り利用者は多かった。							
中藤公園	891	猛暑等による天候不順により昨年比減となったと推測される。							
合 計	2,165,632								

所在地:西東京市、小平市、
東村山市、東大和市
開園面積:8.4ha

＜目標と取組方針(狭山・境緑道マネジメントプラン)より＞

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・独自の魅力づくりに取り組む都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

緑道沿いの宅地化が進み、越境枝・落葉・防犯対策などの植栽管理要望が近年増加している。数多くの要望に対応するためにパークモニタリングシステムを活用したDX化を数年前から進めてきた。その効果が表れ苦情要望の減少に繋がった。また地道な点検・作業も日々実施し安全に務めた緑道管理を実施した。

■ 2015年度から導入したパークモニタリングアプリを狭山・境緑道の維持管理にフル活用。年間200件近い要望をデータベース化し、利用者からの要望や現地での維持作業状況がだれでも瞬時に確認できるようになった。これにより要望を俯瞰的に選別し、優先順位をつけて維持管理作業を行う環境が整った。要望を受ける前に作業を進めた結果、**草刈要望は4件にまで減少！ 集草要望の苦情は0件と大幅減**となった。全体を通じて要望が昨年比約15%減となった。



優先順位が高い越境枝→要望前に対応



総延長10kmの要望を地図上に示し、作業計画に反映させている※数字が要望件数

パソコンで
一元管理

■緑道に多く生育する大径木、老木のサクラ全470本を樹木医により調査。鋼棒貫入や打音調査、目視確認で落枝や倒木の危険を把握し、維持管理計画に反映。その他にも職員による日常点検を実施し安全管理に努めた。



樹木医による調査結果に基づき優先順位を付けて対応

[illegible][illegible]

2 長年の利用者要望ついに実現！

総延長10キロメートルの緑道では様々な要望を受ける中、長年利用者に不便をかけてきた階段の改修工事を実施した。要望を実現するために10回以上の協議会を経て内容をすり合わせた結果、安全性を確保しつつ快適な利用環境を整備し利便性向上を実現化、多くの利用者に喜ばれている。

周辺住民の方との協議を重ね、安全性向上を目的とした改修工事が完成！

約30年前に設置された階段の為、踏面や蹴上の寸法がバラバラで安心して通行できなかった。また、階段降下後のスロープ角度が21.3%ときつく、転倒してしまう可能性が高い舗装となっていた。

また階段上段部は信号があり、信号待ちの滞留者との動線が悪い場所だったため、待機スペースの設置も課題であった。



自治会と現地にて課題を共有



課題を検証し設計



未舗装の30mスロープ



根上がり段差箇所



3 緑道ガーデンパートナー制度の推進

「緑道ガーデンパートナーズ制度」という一定のルールを基にした枠組みを活用し、適切な利用を促しながら魅力的な緑道づくりを推進した。職員が頻繁に緑道を訪れ、無許可で花壇を作っている方々に登録を呼びかけた結果、今年度は26件の登録があった。

コミュニケーションツールの作成

ガーデンパートナー制度のしおりを新たに作成し配布を開始した。制度の概要と花壇活動のルールをイラスト付きで分かりやすく掲載。

ガーデンパートナー登録者にはルール遵守を促し、未登録者には制度を案内することで無断活動の防止と、適切な利用を促進した。この取り組みを通じて、地域の方々が安心して花壇活動に参加できる環境づくりを目指していく。



新たに作成したしおり



新規登録者花壇



ガーデンパートナーズ花壇



都立 狭山公園

所在地: 東村山市、東大和市
開園面積: 23.5ha

テーマ 狭山丘陵の玄関口 ～人と出会う、自然と出会う、はじめの一步～

＜目標と取組方針(狭山公園マネジメントプランより)＞

- ・地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 来園者に寄り添った維持管理の取組み

来園者の視点を大切に、安全・快適な公園整備を推進。居心地の良い空間作りのための草刈りや樹木管理、気持ちよく使えるトイレの維持、防犯性向上のための全園路灯LED化などを行った。

安全・快適な空間づくり

広場・草地の管理

- 風の広場を中心に年7回の草刈りを実施。**気持ちの良い原っぱを維持**しつつ、草刈りの際に一部刈り残す「バッタランド」を設け、生きものとの触れ合いの場にも！

樹林地管理

- 園内や隣接地の枯れ木は優先的に伐採。園路への倒状予防や園内通行止め個所の解除を行った。

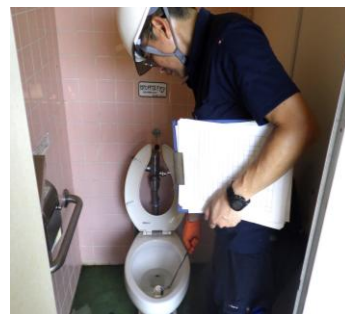


快適な空間を維持

快適な施設を来園者に提供

トイレ清掃を強化

- 有資格者による清掃インスペクションを実施。結果を基に日常清掃を強化。また特別清掃も行い、快適なトイレを利用者に提供！



清掃インスペクション

全園路灯のLED化が完了！

- 公園内の園路灯全31基をLED化(今年度は11基改修)
- 長寿命化・コスト削減と共に、安全・防犯性向上



LED化を実施

2 地域特性と自然環境を活かしたヘルシーパーク推進の取組み

健康促進に寄与する公園“ヘルシーパーク”推進！

年間27回のヘルシープログラム(計7種)を開催し、延べ438名が参加！

公園の自然環境を活かした世代別ヘルシープログラム

- 子ども向けの「スポーツチャレンジキャラバン」や大人向けの「ノルディックウォーキング」、誰でも気軽に参加できる「パークヨガ」など、全世代を網羅したプログラムを開催。**地域のつながりを深めながら、健康づくりやリフレッシュの場を提供！**



地域特性に合わせたスポーツプログラム

- マラソン大会やランニング利用が多い地域特性を考慮し、プロアスリートから走り方を学ぶ「ランニングクリニック」や「走り方教室」を開催。プロアスリートから学ぶことにより、スポーツを通じた目標意識や向上心を育む機会を提供！



ヘルシーパークの様子

3

多様な主体と連携！狭山公園を拠点とした地域活性の取組み

これまで築き上げた多様な主体と共に、『さやまKIDS DAY』や『SAYAMA HILLS DAY』など地域活性、狭山丘陵PRを目的とした広域連携事業を展開。また今年度は新たに「子育てに優しい公園」を目指す3つのイベントを実施！

都県境を超えた連携で狭山丘陵の魅力発信！

- 親子で自然を楽しむ「第11回/さやまKIDS DAY」を開催！
自治体、地域団体など計13主体と連携し、自然や狭山丘陵一帯の楽しみ方を紹介。1,280名が来場！ 主催：狭山丘陵パートナーズ
- 狭山丘陵の自然や保全活動をPRする「第11回/SAYAMA HILLS DAY」を開催し、1,100名が来場。連携した自治体、地域団体など計22主体と環境保全の情報を発信！

主催：狭山丘陵フェア実行委員会
事務局：狭山丘陵パートナーズ



さやまKIDS DAY(6自治体のご当地キャラも集合！)

子育てに優しい公園を目指す3つの取組み！

- 東村山市子育て総合支援センターとの共催で、親子向け自然観察プログラムを年2回開催/計36名が参加！
- 東村山市立回田小学校の生徒が企画した自然遊びプログラムを、「あったらいいなをみんなで作る公園プロジェクト」として狭山公園にて開催。発案した生徒たちが運営し、約400名が来場！
- 防災を学ぶ親子向けイベント「防災ピクニック」を開催！
防災安全コーディネーターが公園の防災機能紹介や防災関係の質問に回答。地域の防災団体も参加し、新たなつながりに発展！



あったらいいなをみんなで作る公園プロジェクト



子育て支援施設と連携したガイド

防災ピクニック

4

公園の見どころ・自然を協働の力で育む取組み

園内の見どころや自然を守る年間プログラム2種類(コミュニティガーデナー講座、狭山公園キッズレンジャー)を、より気軽に参加しやすい仕組みに変更

講師と花壇活動・コミュニティガーデンボランティアDAY！

- 例年、年間登録制/年10回実施している花壇講座を、各回当日受付/年11回の花壇活動に変更。
新規施設工事の状況に応じ、活動を休止することなく柔軟に運営！
- 延べ144名が参加し、20名が今年度より初参加
公園の見どころづくりに関わる方が増加！
- 生産・廃棄の観点からより環境に優しい「多年草花壇」について学ぶ機会を設け、**参加者の知識・技術向上に寄与！**



↑花壇活動

多年草講座→



自然を知り、守り、伝える・狭山公園キッズレンジャー！

- 例年、年間登録制(定員20組)/年9回実施している親子向けプログラムを、各回当日受付に変更
- 定員も無くし、**年間延べ346名の親子が参加**
身近な自然を守り育む担い手を狭山公園で育成！
- 雑木林手入れ、外来種捕獲、鳥の巣箱づくりなど
生物多様性向上の取組みを子どもたちと推進！



↑雑木林手入れ
鳥の巣箱づくり→





都立 八国山緑地

所在地: 東村山市
開園面積: 37.1ha

テーマ 歴史・人・自然をつなげる里の道 ～古を思い、次世代へ伝える～

<目標と取組方針(八国山緑地マネジメントプラン)より>

- ・地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 中期的な視点に立った維持管理の実践

八国山緑地ではナラ枯れ及び大径木化した樹木が多く、これまでも計画的に安全確保のための維持管理を実施。特に西武鉄道沿いは5か年計画で伐採、剪定を進めてきた。折しも、6月に西武鉄道への倒木が発生し、計画を前倒してセットバックを推進。加えて作業で発生した材の利活用も行った。

5か年計画で危険木対策の実施

■ 2021年に樹木医による西武線沿線沿いの危険木調査を行い、対処する樹木約137本を選定。折しも6月の豪雨による西武線への倒木事故が発生したため、緊急に原因調査を実施。類似木の伐採、及び5か年計画を前倒し、鉄道沿線のセットバックが完了。線路沿いの安全を確保した。



西武線への樹木が倒木



調査結果から分析



計画を前倒し



技術力で作業



1年間で
セットバック
完了

発生材の利用促進。歩きやすい丘陵地公園へ！

発生材有効活用のため、園路の山側と谷川に土留めとして伐採材を使用。歩きやすい階段を整備した。また枝葉はチップ化し園路に敷きならすことにより利活用を図った。



伐採した幹を園路沿いに並べ、土留めとして活用



枝葉はチップにして園路に敷き均した

2

安全性が確保された雑木林で、里山ヘルシープログラムを146名に提供！

心と体のヘルシープログラム

■森林セラピストと冬の雑木林散歩 new!

雑木林環境を活用した、心のリラクゼーションプログラムを初開催。ストレスの緩和や運動不足の解消を図り、健康とウェルビーイングの向上につなげることを目的に実施。参加者の回復度47%上昇、ストレス度25%減少※。チケットは早々に売り切れ、遠方からの参加もあり、自然の癒しへの期待とニーズに応えられた。また、森林浴トレーナー5名がオブザーバー参加。森林セラピーの普及貢献と新たなつながりを築く機会になった

※ 効果測定アンケートより



「運動不足と仕事のストレスからの解放を目的にきました」

「心身ともにリラックスできた!」

「とても充実した時間を過ごせました」

■スポーツキャラバン new!

スポーツコーディネーターによる親子向けのスポーツプログラムを八国山緑地にて初開催！
八国山の自然の中で、親子一緒に体を動かす機会を提供！



「子どもと一緒に楽しめた!」

「色々なスポーツ体験ができて楽しかった!」

「子どもの足のサイズを測ってもらえて参考になった!」

自然を楽しむアクティビティー

■八国山で木に登ろう! ツリーイング

ハーネスを使用して木登りをするイベントを開催。非日常の高さから、全身で自然とふれあう機会を提供することを目的に実施。幅広い年代が参加。家族参加で親子の絆を深める機会になり、賑わいの公園風景も創出した。



「普段見ないような景色で新鮮でした!」

「見るのとやるのは大違い。全身運動でクタクタ。さわやかな疲れです」

3

地域の方々と共に、八国山の自然を守る取組み

6年目の連携! 地元小学校と連携した湿地環境保全の取組み

東京都の絶滅危惧種「ハンノキ」やその他湿生植物の保全を推進。日照を阻害しているハンノキ(大径木)を段階的に伐採し環境を改善させた他、隣接する北山小学校の5・6年生との協働による保全活動を強化!

- 連携6年目を迎え、これまでの振り返りや活動の意義、今後の方針を学校長、副校長、担当教員と改めて協議、確認
- 湿地の陸地化を防ぐための堆積土砂の掘り取りや、適度な水深の浅場づくりなどを実施。湿地周辺の樹林地再生のためのコナラの苗木作りも初実施!



北山小学校の5・6年生と保全活動



北山小学校の5・6年生と保全活動

八国山で初実施! キッズレンジャーによるアカマツ保全がスタート

八国山緑地ではアカマツが松枯れにより減少傾向にあり、実生も育たないことから、新たな取り組みとしてキッズレンジャーによる植樹を実施。

- 令和5年度にキッズレンジャーたちが作成したアカマツポット苗(東大和公園産50本)を1年間育て、八国山緑地のアカマツ再生エリアに植樹!
- 子どもたちと共にこの活動を通じて、未来の豊かな自然環境を育む第一歩を進めることができた!



アカマツのポット苗を植樹



都立 東大和公園

所在地: 東大和市
開園面積: 18.7ha

テーマ 雑木林博物館 ～雑木林のすばらしさを感じ、学び、育む～

<目標と取組方針(東大和公園マネジメントプラン)より>

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 東大和公園のシンボル・アカマツ林再生の取組み

アカマツに関する課題

- ① 松枯れ病による成木の枯死
- ② 日照不足による幼木の成長不良、実生の発芽障害

これまでの取組み

- ① 保全計画作成・地域の合意形成
- ② 保全エリアの整備・維持管理
- ③ 関係団体とのアカマツ保全に関する情報交換

令和6年度取組み

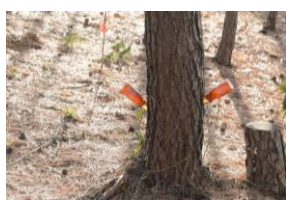
- ① アカマツの母樹を守る取組み
- ② 実生の保全を推進
- ③ 間伐による幼樹の育成を促進
- ④ 狭山丘陵一丸となったアカマツ保全

① 松枯れ防止のため樹幹注入を継続！

- 狭山丘陵でも広がる松枯れ被害からアカマツを守るため、GISを活用した樹木管理を実施！
園内の母樹166本のうち、今年度は40本に薬剤を樹幹注入！これにより、園内の約73%のアカマツに対策を実施し、松枯れ防止を大幅強化！



アカマツ追跡調査図



樹幹注入の様子

② アカマツの実生育成、追跡調査！

- アカマツ再生計画(平成31年度作成)に基づき、アカマツの実生の保全を推進！草刈り時のマーキングや手刈りによる丁寧な管理が効果を発揮し、**1200本以上の実生が順調に成長**。実生保全の成果を確認！



発芽した実生



実生調査の様子

③ 実生の保護からさらなる成長へステップアップ！

- 6年間でアカマツの実生が順調に生育し、**高さ3mを超えるまでに成長！**
しかし、成長とともに枝同士がぶつかり合い、光不足で生育環境が悪化。そこで、アカマツの間伐を実施！
適切な日照環境を確保し、さらなる成長を後押し！アカマツがより力強く育つ環境を整備し、未来へつなぐアカマツ林の再生が、確実に前進！



伐採の様子



間伐後の様子

健全なアカマツ林に成長促進！

④ 狭山丘陵一丸となったアカマツ保全へ！

- 狭山丘陵関係団体が集まり環境保全について協議する『狭山丘陵広域連絡会』を開催。カマツ保全のノウハウを共有し、都県境を越えた保全活動を強化！
ネイチャーポジティブの実現へ向け、さらなるエコロジカルネットワークの拡大へ！



広域連携による生物多様性向上に貢献

2 子どもたちの声が響く公園を目指した取り組み

地域の方々や公園ボランティアと協議を重ね手入れされた「森の遊び場」や、その周辺の広場を活用した未就学児向け自然遊びイベント『雑木林ようちえん』&『レンジャーガイドウォーク』を同日開催。

協働により整備された環境で『雑木林ようちえん』開催！

- 「森のあそび場」の探検や、秘密基地作りなど親子で楽しむことができる自然遊びを多数展開
- 園内のおすすめスポットを巡るワードラリーも初実施！
- レンジャーガイドウォークとの同日開催で、参加者誘致に相乗効果！（計28名参加）



↑公園ボランティアによる
森の遊び場整備

森の遊び場
西側入口→



上：枝の秘密基地作り
左：ワードラリー 右：レンジャーガイドウォーク

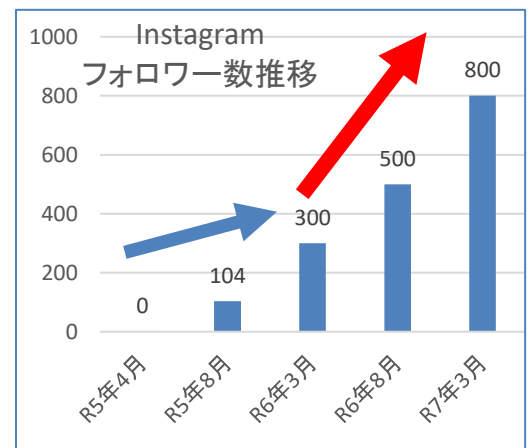
3 誰もが知る東大和公園を目指して、情報発信強化の取り組み

誰でも手に取れる紙媒体での情報発信

- 東大和市広報プロモーション課に協力、遠足や校外学習の場として市内の緑地を紹介するチラシに東大和公園を掲載
- 東大和市報掲載5回。公園イベントPR！
- 近隣保育園、カフェ、スーパーなど地元の方の目に留まる場所にチラシ掲出！



東大和市プロモーションチラシ



子育て世代に向けて、SNS、WEBでの情報発信

- Instagram, Facebookで季節の見どころやイベントを発信
- 親子お出かけサイト投稿強化





都立 野山北・六道山公園

所在地: 武蔵村山市、
瑞穂町
開園面積: 204ha

テーマ なつかしいようで未来につながる公園
～豊かな自然を活かし、みんなで学び、育てる～

<目標と取組方針(野山北・六道山公園マネジメントプラン)より>

- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1

【ナラ枯れ】公園の安全確保と雑木林における多様性の再生

ナラ枯れに関する課題

- ① 園内及び外周部の安全確保
- ② 効率的で安全な伐採
- ③ 減少する生物多様性

令和5年度取組み

- ① 園路沿い及び外周部の樹木台帳作成
- ② 伐採計画の作成
- ③ 計画に沿った伐採作業
- ④ 伐採後の樹林再生計画の作成

令和6年度取組み

- ① リモートセンシングによる状況把握
- ② 伐採計画の作成と伐採作業の実施
- ③ 雑木林の更新と生物多様性の向上
- ④ 被害地での協働による樹林再生

① リモートセンシングによる状況把握

- ドローンやGISを活用し、ナラ枯れによる環境変化の把握と安全管理を推進
- 枯損木の多い危険箇所をドローンにより遠隔から安全に確認、危険木の集中するエリアや植生を可視化
- ナラ枯れ被害の追跡調査の結果を、GIS上で記録・分析し、ドローンの映像と併せて、伐採計画や今後の管理方針の検討素材として活用



ドローンの操縦



遠隔操作で安全確保

ドローンの視覚映像



伐倒処理



クライミングで枯枝処理



スパイダーリフトで伐採

“選べる伐採”で作業効率が大幅アップ!

② 把握した情報を元に作業計画作成・伐採

- 危険木の分布と利用状況を照らし合わせて封鎖箇所と開放箇所を区分。優先順位を設定し計画を作成
- 地形や対象樹木の状態に応じて、伐採方法を柔軟に使分け作業効率と安全性が向上
- その結果、年間で約1,500本のナラ枯れ被害木の伐採終了

③ 雑木林の更新と生物多様性の向上

- 赤坂谷戸では、ナラ枯れに先行し過年度に策定した更新伐採計画に基づき、萌芽更新と下草刈り等を継続実施
- 明るい雑木林で見られるオケラやリンドウなどの希少林床植物の生育を確認、生物多様性が向上!



赤坂谷戸の更新伐採計画



オケラ



リンドウ



萌芽更新により樹林が再生

④ 被害地での協働による樹林再生

- 公園ボランティアや企業と連携し、ガイドラインの作成や植樹を実施
- 多様な主体との連携により、持続可能な樹林管理の実現へ!



企業CSRによりコナラの実生44本を植樹!



公園ボランティアとゾーニングを検討

2 活動拠点×コーディネーターにより活動内容が拡充！

2023年11月に新しく活動拠点が完成し、今年度から本格運用を開始。活動拠点を活用し、コロナ禍で休止していた食を扱う活動など再開。パークコーディネーターがボランティアの想いに寄り添い、各活動の相談調整を行い、協働による里山の風景づくりを推進。5,847人が里山の風景作りの活動に参加！外部からの視察受け入れ件数も約4倍の13件に！



活動拠点



伝統食作り



雑木林



わら細工教室



田植え



地域の太鼓の演奏



わいわいミーティング



収穫祭

活動を通し、様々な社会課題の解決に寄与、都立公園の価値を向上

- パークコーディネーターが核となった、人と人とのつながり創出によるコミュニティの拡充
- 誰もが参加しやすい場づくりによる、高齢者の社会参加の促進
- わら細工や地域の伝統食について学び、次の世代へ伝えることによる伝統文化の継承
- お雛子の保存会、和太鼓の演奏グループなど地域団体との連携による地域の活性化
- 湿地や雑木林の保全作業、定期的な植物調査等による里山の生物多様性の向上
- 活動を通じた自然や多様な人との触れ合いによる子どもたちの健やかな成長への寄与



SNSでの情報発信強化、ボランティア登録者数増加！

- 活ボランティア活動の情報発信を強化。フォロワー数の目標を立て計画的に記事を作成、広報部と連携し公園SNSへ投稿
- ボランティア活動について75件の投稿を実施
- 令和7年度新規公園ボランティアに、前年度より多い90人が登録



3 都立公園の環境を活かした「ホンモノ体験」を提供

パークレンジャーによる段階的なプログラムで行動変化に繋げる

- のべ36回のプログラムにのべ約630人が参加！
- 自然への愛着や、多様な人と関わり認め合う姿勢を育み、子どもたちの生きる力を醸成
- 段階的なプログラムで、参加者6組20人が令和7年の度公園ボランティアに登録。自ら行動する立場へ

「楽しむ」

誰でも参加できる、当日受付の短時間プログラム
レンジャーのガイドやクラフト体験など



「学ぶ」

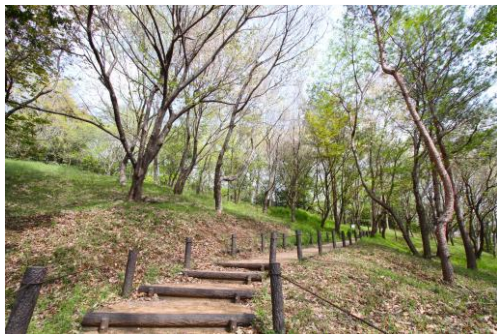
事前申し込み制の一日
プログラム



「行動する」

公園ボランティアに登録！





都立 中藤公園

所在地: 武蔵村山市
開園面積: 4.3ha

テーマ 狭山丘陵の緑の連続性を確保しつつ里山の歴史を引き継いでいく場

＜目標と取組方針(中藤公園マネジメントプランより)＞

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・自然とふれあえる場となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1

PDCAサイクルによる雑木林の育成

これまでの取組み

- ①整備工事引継ぎ後の動植物調査
- ②調査結果を踏まえた、樹林管理計画を作成
- ③アカマツ実生の追跡調査



樹林管理計画



アカマツ実生の保全

令和6年度の取組み

- ①計画に沿った維持管理の継続
- ②もや分けによる林床整備を実施
- ③アカマツ実生の追跡調査を推進

■ 計画書に沿った作業の実施

- ・年2回の草刈り、つる取り等を継続
- ・アカマツ実生の保全と育成、母樹の樹幹注入

■ 伐採から5年が経過し、萌芽枝が順調に成長。 当初の計画を踏まえ、もや分けを実施！



萌芽枝が密生



もや分け後の様子



成果

- 林床でリンドウ、オオバギボウシが開花。もや分けによる日照条件の改善で今後のさらなる林床植物発芽に期待
- アカマツ実生が成長、ついに結実へ！
20本の実生が順調に育ち、発芽から5年目の個体は高さ2mを超え、ついに松ぼっくり(球果)をつけるまでに成長！



確認されたリンドウ



アカマツが順調に生育

2 ランドスケープチェックを踏まえた魅力アップ

魅力を際立たせる維持管理と効果的なレンジャープログラム

- 見どころの一つ「モミジ広場」にて、林床の草刈りと眺望確保を実施！
- 紅葉のピークに合わせて開催。モミジ広場をゴールにして公園の魅力がより印象深くなるプログラム構成に！
- イベントアンケートでは**満足度100%！非常に高い評価を獲得！**



草刈り作業の様子



ガイドウォークの様子

掲示板を新設、情報発信を強化

- 多方向から園路が集まる地点に掲示板を新設し、イベントや自然の情報を発信！
- 既存掲示板を見やすく改善、園内の自然の魅力をより伝わりやすく紹介！
- デザインや配置を工夫して、つい立ち寄りたくなるようなワクワクスポットに！



新設した掲示板



見えにくさを改善した生き物紹介

3 利用者アンケートの声を反映した 情報発信の強化

周辺情報の案内を拡充し、訪れやすい公園づくり推進

- 令和6年度利用者アンケートの声を元に、来園者が使いにくいと感じる項目を把握
- 来園時に利用できるトイレおよび駐車場について、武蔵村山市と調整し周辺施設の情報を配布地図に掲載。公園ホームページからもダウンロード可能に
- 今後も開園状況に合わせて情報発信を拡充



周辺施設情報を追記したマップ



公園ホームページの情報も更新

トイレ・駐車場
などもご案内！

4 マナーアップキャンペーンを刷新、啓発効果を向上

内容を見直し、来園者と野鳥の共生できる環境づくり

- リーフレットの内容見直しを実施。野鳥観察を始めたばかりの方への普及啓発効果を高めるため、野鳥観察のコツを追加、楽しみ方を提案し配布枚数増加！
- 日本野鳥の会奥多摩支部と継続して連携。密な情報共有で、園内での餌付けや音声での呼び寄せに迅速に対応！
- 隣接する野山北・六道山公園で採餌をテーマに野鳥写真を展示。生き物同士の繋がりについて紹介し、餌付けをしない観察について理解を広めた
- 人と野鳥（自然）が共生できる環境づくりを今後も推進！



見直し・更新したリーフレット



掲示物



写真展示の様子